

委員コメント用資料

1. 今村 文彦 委員資料 P 1 - 1 ~ P 1 - 13

防災から見た国土基盤

東北大学・今村文彦

■ 国土基盤

Knowing hazard

■ 土地（空間的な位置・境界, アジア・国際）

■ 自然環境（災害）

Knowing disaster and risk

■ 生態系（陸海域, 沿岸域）

■ 防災・減災対策

Mitigating damage and risk

■ 3つの要素

■ 人

■ 情報

■ 施設

災害に強い国土基盤

■ 現状認識

- 温暖化，地震活動期：自然災害の増加
- 少子高齢化，コミュニティー衰退，知識低下，依存症：地域防災力の低下
- 限られた予算と人材

■ 目指す姿

- ハードソフトの一体となった総合的な防災基盤
- 情報の活用による減災体制
- 人材育成（教育，行政，研究）

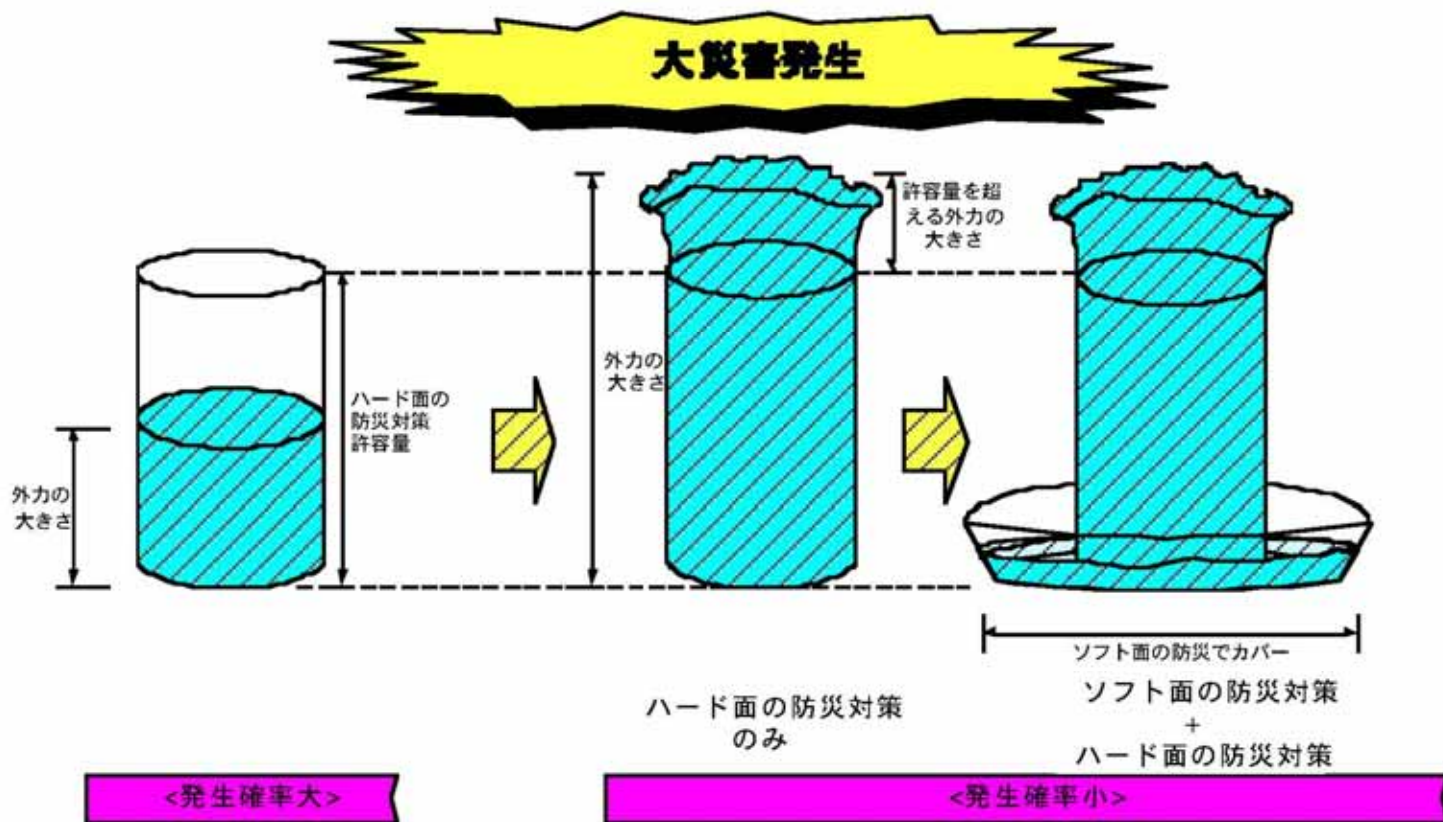
■ 政策手段

- ハード・ソフトの推進
- 緊急輸送ルート確保，災害時のリダンダンシー多重化
- 防災情報システムと専門家の構築，メディアとの協力
- 防災技術の発展，国際協力，（教育と研究）

■ 赤字は今村が追加

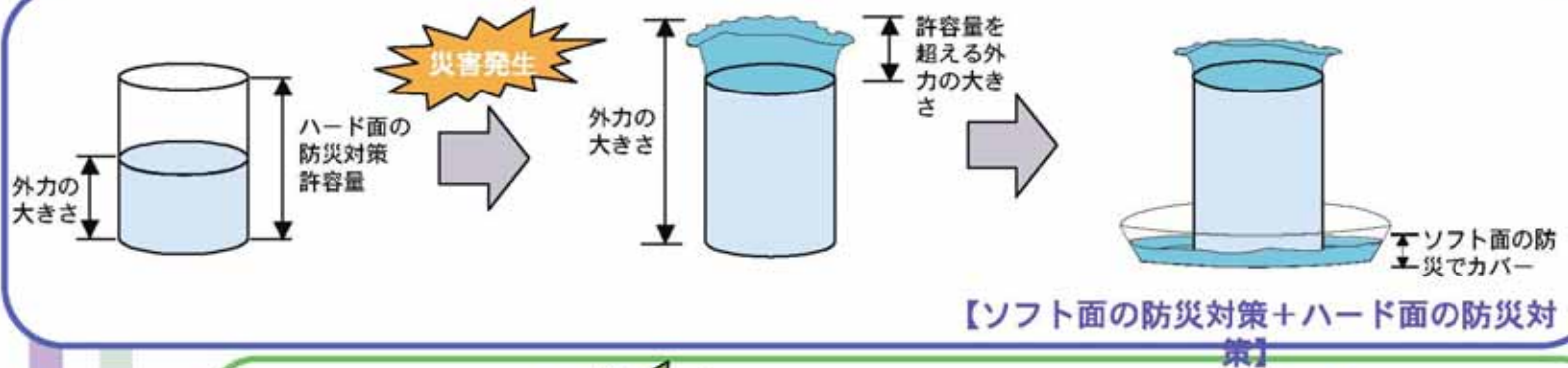
災害発生は、外力と防災力の差

ハード面、ソフト面の津波・高潮防災対策の連携

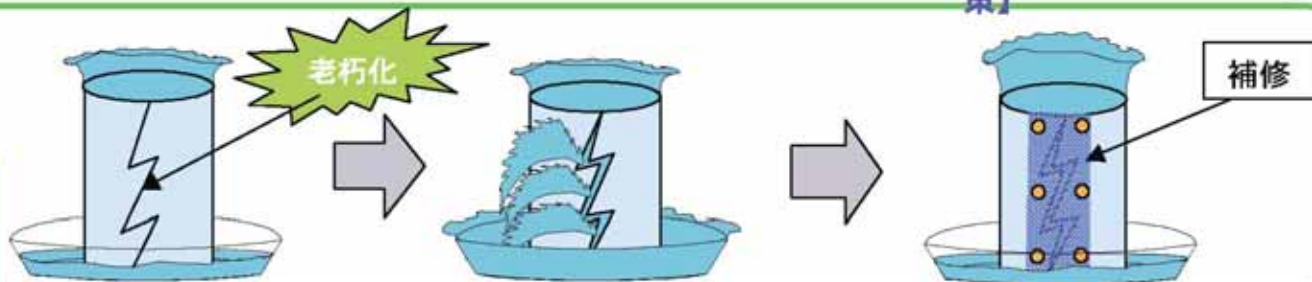


ハード・ソフト対策の適切な組み合わせ

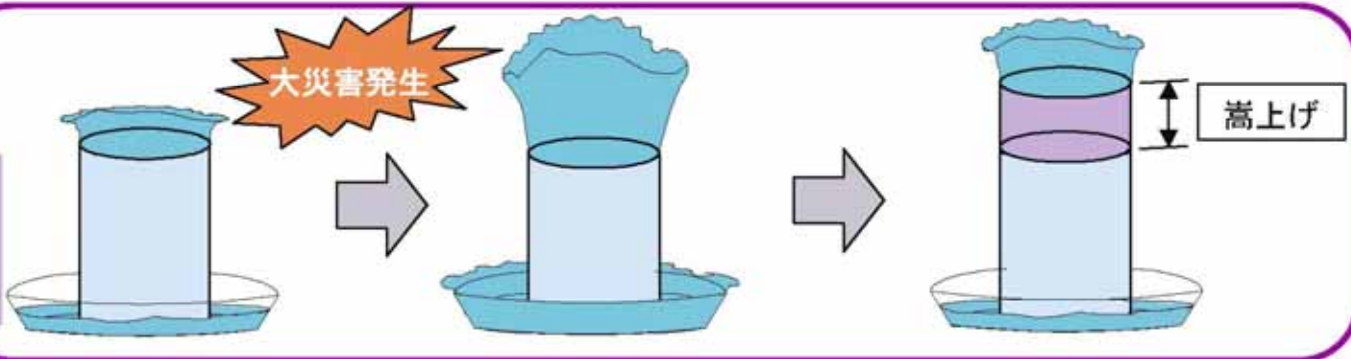
ハード面の防災対策の充実により、ソフト面の防災対策が十分発揮される。



老朽化が進むと...



さらに大きな外力がかかると...



安心・安全は教育から

しかし、今の学校教育の現状は？

参照：影山英男(2005)

- 教育の変化
- 1981年 子供たちが眠らなくなった
 - テレビが一家に一台から、一人に一台へ
 - テレビゲームの東條
 - 早く寝る子ほど学力は高い
- 1993年 子供たちから学びが取り上げられた
 - 「新・学力観」から子供は指導するものではなくなった
 - 個性の重視と基礎知識の欠如
 - 中学の数学、週3時間、英語一週3時間
- 1995年 阪神淡路大震災
 - 人の命の尊さ・儚さ
- 2000年 総合学習の導入、徐々に防災の内容も展開・・・
- 2004年スマトラ地震インド洋津波
- 突然の大災害が世界に衝撃、情報・知識が命を救う
- 地域での教育が不可欠

安心・安全は教育から

PTA, 地域, 企業もサポートしなければ・・・

■教育は学校だけ？

■家庭での教育

■地域での教育

■国際的な教育

■減災の主体は学校

■避難所

■人材育成（中高生は地域のリーダーにも）

技術・情報・人の投入

課題整理

課題：ハードソフトの融合，ハザードマップ，リアルタイム情報・震度情報，インセンティブ防災，政策と評価，救急，復旧復興

公助

自助

共助

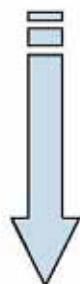
課題：災害を知る，家族会議，防災教育，助け合い，魅力的な活動，日常からの延長

課題：コミュニティ形成，まちづくり，リーダー育成，ボランティア，防災訓練，講演会，学校

住民の認識と実態とのズレ

津波避難ビルと津波防災マップの例からは・・・

- 地域でとられている対策を把握していない可能性がある



実際はある→「そんな対策はない、知らない」
(認識の誤り)

- その防災対策は災害時や事前の対策として、効果を発揮しない可能性がある

津波マップ 認識薄く

東北大グループ調査

津波防災マップ配布の充実度(住民)



調査グループは、一九七〇年津波防災意識が高い宮城県、茨城県、千葉県、東京都、大阪府、兵庫県、福岡県、北海道、東北地方の各市町村を対象に、津波防災マップの配布状況について調査した。調査の結果、津波防災マップの配布状況は、地域によって大きく異なることがわかった。また、津波防災マップの配布状況は、住民の年齢や性別によって異なることがわかった。

住民、活用せぬ恐れ



「知らない・わからない」の割合は、調査対象の全体的な割合を大きく上回っている。また、津波防災マップの配布状況は、住民の年齢や性別によって異なることがわかった。調査の結果、津波防災マップの配布状況は、地域によって大きく異なることがわかった。また、津波防災マップの配布状況は、住民の年齢や性別によって異なることがわかった。

調査グループは、一九七〇年津波防災意識が高い宮城県、茨城県、千葉県、東京都、大阪府、兵庫県、福岡県、北海道、東北地方の各市町村を対象に、津波防災マップの配布状況について調査した。調査の結果、津波防災マップの配布状況は、地域によって大きく異なることがわかった。また、津波防災マップの配布状況は、住民の年齢や性別によって異なることがわかった。

地域リーダー講習会：津波を知ろう



地域リーダー講習会： マップを作ろう



地域リーダー講習会： 発表会（結果の共有），対策を考える



地域の取り組み・共同

<http://www.pref.miyagi.jp/ks%2Ddoboku/kikaku/collabo/collabo.htm>

津波コラボ・ネ・サイン

津波防災サインを地域住民と協働で設置、そして・・・
全国初の観光客による効果を検証！



これまで懇談会で検討を進めてきた津波防災サインを地域のみなさん、土木事務所、志津川町の**総勢約90名**により協働で設置し、その後、参加者全員で避難ルートを歩きながら、設置したサインを確認しました。

設置したサインは、一目でわかるように工夫を施したことはもちろんのこと、志津川町内の景観にも配慮して製作しました。



全国初!



復旧・復興の重要性

- すまい：生活再建
- つながり：自立と連携
- まち：地域の形成
- ところとからだ：被災体験

■ 課題

- 復興計画を短期でまとめざるを得ない
- 復興計画を短期で多くの人数で実施すると**総花的**になる

